

**6/23~6/29は  
男女共同参画週間です**

「男女共同参画社会」って何だろう？

男女共同参画社会とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意志によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」です。（男女共同参画社会基本法第2条）

男女共同参画推進本部は、「男女共同参画社会基本法」も公布・施行日である平成11年6月23日を踏まえ、毎年6月23日から29日までの1週間を「男女共同参画週間」として、さまざまな取組を通じ、男女共同参画社会基本法の目的や基本理念について理解を深めることを目指しています。

出典：内閣府男女共同参画局

◆男性の家事・育児参画に関する調査より

Q 「あなたは、育児、介護などの家庭で担わされている役割について、あなたと配偶者でどのように分担したいと思いますか。あなたが育児、介護などをしている、していないに係わらず、保育所、訪問介護、家事代行サービスなど外部サービスの利用も含め、あなたの気持ちに最も近いものを1つだけお答えください。」

○女性

年齢	配偶者の方が自分より多く分担	自分と配偶者が半分ずつ分担	自分の方が配偶者より多く分担	その他
18~29歳	50.8%	18.5%	17.7%	4.8%
30~39歳	44.3%	24.5%	22.4%	4.6%
40~49歳	34.8%	26.3%	20.3%	14.6%
50~59歳	31.1%	18.9%	26.9%	13.9%
60歳以上	29.2%	19.8%	26.9%	14.1%

○男性

年齢	配偶者の方が自分より多く分担	自分と配偶者が半分ずつ分担	自分の方が配偶者より多く分担	その他
18~29歳	30.4%	19.7%	21.2%	28.7%
30~39歳	36.2%	20.2%	21.2%	12.4%
40~49歳	28.2%	17.8%	31.2%	12.8%
50~59歳	21.3%	14.1%	31.1%	23.5%
60歳以上	17.8%	11.9%	28.2%	43.1%

△しかし、夫婦の仕事時間、家事・育児時間（共働き世帯）についての調査結果（2016年調査）では、妻の雇用形態に関わらず、夫の家事・育児時間は妻に比べて短いという現実があります。

**「仕事と子育て等の両立を阻害する慣行調査（内閣府）による主な意見**

幼稚園・保育園・認定こども園等

- ・園が母親にしか連絡事項や子供の様子を伝えない。
- ・父親が送り迎えをしていても、「お母さんに伝えてください」と言われる。
- ・おたよりの宛先が「お母さんへ」となっている。
- ・緊急時の第一連絡先として父親の連絡先を登録しているが、母親に連絡が来る。
- ・園からの連絡は電話のみで、仕事中は対応できない、SNSやメールなどの連絡を可能にしてほしい。
- ・保護者会が平日午後に開催され、仕事との折り合いがつけづらい。
- ・保護者会には母親が参加する家庭が多く、父親が参加しづらい。
- ・バスの送迎は母親が対応する決まりで、父親が対応するときは園に連絡が必要。
- ・父親の職場・上司が育児に理解がなく、父親は仕事優先のため、送り迎えは母親が中心。

小学校・学童保育等

- ・PTAや学校行事に参加するのは母親ばかり。
- ・父親が授業参観に行くことを当たり前の雰囲気にしてほしい。
- ・保護者会が平日に開催され、父親の出席率が低いため、父親が行きづらい雰囲気がある。
- ・PTAは、会長のみ父親。活動は母親が中心。

習い事・課外教室等

- ・野球チームでは、父親はコーチ、母親はお茶の準備、道具の片付け、スコア付けなど、父親と母親の役割に違いがある。

地域・外出先

- ・男性用トイレにおむつ交換台やベビーチェアがない。
- ・商業施設などのベビールーム（ミルクの準備や授乳、おむつの交換、休憩ができる場所）は、男性が入りにくい雰囲気。男性入室お断りのところもある。

家庭（炊事、洗濯、掃除等）

- ・男性の家事・育児参画に対して、職場・上司の理解が不十分を感じる。
- ・男性の育児休業制度が整備されているが、利用者が少ない。
- ・男性が家事・育児のために帰宅することに、理解のない同僚がいる。
- ・父親が家事・育児をしていると、不甲斐ない母親とみられる。

その他行事等

- ・自治体の乳幼児健診や子育てイベントが、母親の参加を念頭に置いており、実際の参加者も母親がほとんど。
- ・配布される問診票やアンケートも、育児は母親が行なうことを前提にした設問になっている。
- ・自治体の両親学級が平日に開催され、父親が参加しづらい。
- ・保育所の入所申し込み手続きをオンラインにしてほしい。

資料「仕事と子育て等の両立を阻害する慣行等調査（2022年）」より：内閣府男女共同参画局

・固定的な性別役割分担意識や性差に関する偏見・固定観念、無意識の思い込みをしていないか、自分事として振り返ってみませんか。

**無くそう思い込み、  
守ろう個性**

**みんなでつくる、  
みんなの未来。**

Let us eradicate stereotypes and embrace diversity.  
Our future is ours to create.

令和5年度  
**男女共同参画週間**

6/23金~29木

G7 HIRASIMA SUMMIT  
TOCHIGI-NIKKO  
International Meeting on Gender Equality  
Women's Empowerment

○世界共通の持続可能な開発目標（SDGs）で掲げられている17の目標、その一つに「5. ジェンダー平等を実現しよう」があります。  
男女共同参画社会の実現と女性活躍の推進は、日本だけでなく世界共通の課題です。